教 科 支 援 タ イ プ

学習内容の定着を図るための支援

【例】　国語（俳句指導）/理科のフィールドワーク支援

道徳の時間における講話（郷土の先人）等

教科支援タイプ

学力向上の日の取組

学　校　名	奄美市立名瀬小学校	対象学年	全学年
支援活動内容	保護者を中心とした支援ボランティアが各学級に入り，音読検定やドリル学習の採点等を行う。		

1　活用のねらい（学校のねらい）

学年や学級の実態に応じた補充指導を行い，児童に学力をしっかりと身に付けさせるようにするために学力向上の日の取組を実施している。

その際に支援ボランティアを活用することで教師の個別指導の時間を十分に確保して指導効率を上げている。

2　支援ボランティアの募集方法

学力向上の日の取組の内容や実施予定日を文書で配付し，支援ボランティアを募集している。

3　支援ボランティアの出番

毎月１回，木曜日の６校時に実施しているが，その都度20名程の支援ボランティアを各教室に配置して，音読検定の判定やドリル学習の採点係をお願いしている。

4　学習の成果

子どもからは，採点してもらうときは緊張するが〇をもらえると嬉しいといった声や，支援ボランティアからは，子どもたちの様子や家庭学習での接し方について知る機会となったなどの意見があった。

5　活動の工夫や配慮事項等

参加者には，プライバシー保護の観点から採点結果や各子供の学習の様子については他言しないように協力を求めている。

様式

教科支援タイプ

地域の方に感謝し，つながりの輪を広げよう。

学　校　名	奄美市立伊津部小学校	対象学年	６年生
支援活動内容	日頃，お世話になっている地域の方に感謝の気持ちを伝えるために，児童が計画・準備し，地域の方との繋がりを深めたり，郷土への理解と愛情を育てたりする。		

１　活用のねらい（学校の願い）

(1)　地域での見守り・声かけ，手縫のぞうきん寄贈，家庭科や総合的な学習の時間の支援等に対する「感謝」の気持ちを育てる。

(2)　地域の方との交流の中で，昔の学校や子どもたちの様子，食べ物，伝統・文化等の話をしていただき郷土教育の一助とする。

(3)　地域の方との交流を通して，挨拶や礼儀等についての作法を知る機会とする。

２　支援ボランティアの募集方法

学年主任が港町ネットワークの会長さんとの連絡・調整をし，参加・協力できる方を募集している。

３　支援ボランティアの出番

(1)　毎年ボランティア 10 名程度の参加があり，グループに別れ，児童とカルタ等で交流したり，児童の作ったおやつで会食をしたりする。

(2)　会食の中で，昔の学校や暮らしの様子，食べ物やおやつのことなど，児童の知らない時代のことをシマグチや各々のエピソードを交えて話をいただいている。

(3)　活動の中で「正しいお茶の入れ方」や礼節等の指導も行っていただいている。

４　学習の成果等

○　児童・教師・地域の方が顔見知りになり，互いの声かけや見守り，行事等への参加状況も良くなっている。

○　学習の成果を発表する場，外部の方と直接語り褒めてもらう場となり，児童の自信と意欲を高めることができている。

５　活動の工夫や配慮事項等

○　活動後の児童からの御礼状等を喜んでいただいているので，工夫・継続していく。

○　他の教科・領域，行事でも積極的に連携をし，活用の充実を図っていく。

教科支援タイプ

学力向上の日の取組

学　校　名	奄美市立小宿小学校	対象学年	全学年
支援活動内容	保護者が各学級に入り，計算ドリル，計算プリントなどの採点等を行う。		

1　ねらい

子どもの実態に応じた個別指導を全教職員態勢で行うとともに，保護者（学習支援ボランティア）の協力をいただきながら，児童に学力をしっかりと身に付けさせるようにする。

2　実施日時

第２土曜日　→　５月12日（土）２校時，７月14日（土）３校時
９月８日（土）３校時，10月13日（土）３校時
１月12日（土）３校時，２月９日（土）３校時

3　指導態勢

○　学級ごとに実施

※　学年部の専科・加配教諭も指導を担当し，保護者（学習支援ボランティア）にも入ってもらうようにする。なお，保護者には，答え合わせの補助等をお願いし，担任等は，個別指導に当たることができるようにする。

支援学級児童については，支援学級での実施を基本とするが，児童の実態に応じて，交流学級担任と検討する。

4　指導内容

算数科における基礎的・基本的な問題を中心に行う。

＜取組の例＞

・　計算ドリル，計算プリント，教科書確かめ問題等

5　保護者（学習支援ボランティア）への協力要請について

(1)　ＰＴＡ代議員会，及びＰＴＡ総会において，概要の説明，協力要請を行う。
(2)　５月に保護者への依頼文書配付
（協力依頼申込は，５・７月，９・10月，１・２月ごとに実施する。）
協力できる保護者を教頭が集約し，保護者や学級担任に知らせる。

6　学習の成果（10月の保護者の感想より）

毎回，子どもたちの取り組む姿には感心させられます。意欲的に計算に取り組み素晴らしいと思います。初めのころは，○付けだけに追われていましたが，今日は間違っている子どもには少しだけヒントを伝えることができ，またそれを理解し，次，正解の答案を持って来てくれること，こちらもとてもうれしい気持ちになりました。月に一回の取組ではありますが，子どもたちのやる気につながっていると思います。

7　活動の工夫や配慮事項等

参加者には，毎回早めに図書室に集まってもらい，支援の内容やプライバシー保護の観点から写真撮影や採点結果，及び各子どもの学習の様子については他言しないように協力を求めている。

教科支援タイプ

○○名人になろう　～郷土のものにふれながら～

学　校　名	奄美市立住用小学校	対象学年	５・６年
支援活動内容	地域に伝わる島唄や八月踊り・竿踊りの練習を，支援ボランティアを活用して行う。		

１　活用のねらい（学校の願い）

総合的な学習の時間において，地域の方を講師として招聘し，地域に伝わる島唄や八月踊り・竿踊りの練習を行うことにより，郷土教育の充実を図る。

活用にあたっては，下記のことに留意する。

⑴　島唄の中に出てくる方言の歌詞について説明をしてもらい，その唄に込められた思いや子どもたちに伝え残したいことについて触れてもらう。

⑵　八月踊りや竿踊りを継承してほしい思いを話してもらう。

⑶　地域の方との交流を通して，あいさつや礼儀の指導も併せて行う。

２　支援ボランティアの募集方法

５・６年担任が，地域の嘱託員さんやこれまで指導していただいた地域の方へ授業の趣旨・ねらいを相談し，授業参加を依頼した。

３　支援ボランティアの出番

⑴　地域の高齢者の方々，青年団の方が参加した。

⑵　一緒に練習をする中で，唄や踊りへの思いを話してもらった。

⑶　学習の成果を発表する際にも共に参加してもらった。

４　学習の成果等

地域の方々と実際に交流しながら教わることで，子どもたちは，意欲的に取り組んでいる。地域に伝わる島唄や八月踊り・竿踊りを引き継いでいきたいという子どもたちの思いもあり，今後も続けていきたい。

○　地域の方の感想

難しい竿踊りの唄を子どもたちが覚えていることが嬉しい。子どもの人数も減り，継承が難しくなるが続けてほしい。

５　活動の工夫や配慮事項等

⑴　活動のねらいや内容を十分に理解してもらうために打ち合わせを行っている。

⑵　運動会や学習発表会で練習の成果を発表するとともに，地域の全戸に配付している学校だよりにも掲載し，紹介している。

様式

教科支援タイプ

島口でオリジナル劇を発表しよう

学　校　名	奄美市立市小中学校	対象学年	全学年
支援活動内容	市集落市小中学校合同文化祭で，シマに伝わる島口のオリジナル劇を，支援ボランティアを活用して，児童生徒及び職員も一緒に感情豊かに発表する。		

1　活用のねらい（学校の願い）

郷土の方言について関心をもち，積極的に方言活動に取り組むとともに，講師や地域の方との交流を深め，幅広い見識を身に付ける。

2　支援ボランティアの募集方法

４月に市集落全戸数にボランティア募集用紙を配布して，申込者に対して学校が依頼している。

3　支援ボランティアの出番

本校では，毎月第３木曜日の朝の活動時間に支援ボランティアの方に来ていただき，「方言タイム」を実施している。ボランティアの講師は３名いる。

【ボランティア講師による島口劇指導】

発表会前には，総合的な学習の時間で，１時間集中的に練習を行う。

学習発表会で披露する島口劇の脚本は，別の講師の方が中心になって考える。練習では発音や振付等，３人が様々な角度から指導や意見をくださる。また，衣装つくりにも協力をいただいている。

4　学習の成果等

⑴　方言を伝承させるにあたり，子どもたちも方言がより身近なものになり，興味を持つようになった。

⑵　方言や伝統文化の大切さを学ぶ機会になるとともに，地域の方との交流を深める絶好の機会となった。

【講師による日常会話の練習】

5　活動の工夫や配慮事項等

⑴　ボランティアの講師は３名おり，主に学年段階に応じてグループを３つに分けることで，より個別指導に近い方法で行う。

⑵　年間を通し，方言タイムで方言の日常会話についても学習するので，子どもたちは慣れ親しんでおり覚えるのが早い。

⑶　係を中心に事前の連絡等を密に行うようにする。

別紙様式

教科支援タイプ（郷土芸能の学習支援）

緑が丘の郷土文化を知ろう

～　「八月踊り，イソ踊り」・「六調（三味線・チヂン）」を通して　～

学　校　名	緑が丘小学校	対象学年	１～６年生（全校児童）
支援活動内容	島唄や八月踊りなど地域に伝わる文化を伝承する学習活動の中で，学習支援ボランティアを活用して，「八月踊り・イソ踊り」・「六調（三味線・チヂン）の指導を行う。		

１　活用のねらい（学校の願い）

・　島唄，八月踊り・イソ踊りに親しみ，地域の方との触れ合いを通して郷土への理解を深める。
・　運動会で発表することで，保護者や地域の人々の学校教育に対する関心を高め，理解を深める。

八月踊り・イソ踊りの指導

２　支援ボランティアの募集方法

・　喜瀬，用安集落老人会に呼びかける。
・　用安イソ踊りの講師を依頼する。
・　喜瀬八月踊り保存会へ講師を依頼する。

六調（三味線・チヂン）の指導

３　支援ボランティアの出番

・　総合的な時間を利用した練習への指導
・　運動会練習における指導

４　学習の成果等

・　運動会当日，指導の成果で子どもたちがしっかりと唄や踊りをすることができ，保護者・地域・学校職員も一緒に踊ることができた。
・　経験の浅い職員も地域の文化に触れることで，地域を知ることができた。

秋季大運動会での発表

５　活動の工夫や配慮事項等

・　児童の減少により，三味線やチヂンを叩ける子どもが少なくなっているので長期的な練習が必要となってきている。
・　指導者の高齢化が進み，地域の伝統を引き継ぐ人材が年々少なくなってきている。

様式

教科支援タイプ

八月踊りを受け継ぐ佐仁っ子になろう
―習得・発表を通した後継者育成の取組―

学　校　名	奄美市立佐仁小学校	対象学年	全学年
支援活動内容	佐仁校区に伝わる八月踊りの継承活動として，八月踊りの踊り方，シマ唄の意味や歌い方，六調太鼓のたたき方を指導していただく。		

1　活用のねらい（学校の願い）

佐仁校区に受け継がれてきた八月踊りは校区民の宝である。「県の無形文化財である佐仁の八月踊りを深く学ばせ，後継者を育成したい。」このことは，職員をはじめ全校区民の願いである。そこで，朝の活動や総合的な学習の時間に講師を招聘し，文化継承活動を位置付けた。

なお，活用に当たっては，次の２点に留意している。

(1)　踊り方を教わるだけでなく，歴史的な背景や意味についても指導していただく。

【八月踊り学習の様子】

(2)　子供だけで踊れるように，シマ唄や太鼓（チヂン）のたたき方も指導していただく。

(3)　主体的な学習活動にするため，学びを生かす場（合同練習や発表の場）を位置付ける。

2　支援ボランティアの募集方法

総合的な学習の時間の担当教諭が年間指導計画を基に連絡を取り合っている。また，合同練習や発表については，教頭が校区内放送で周知している。

3　支援ボランティアの出番

(1)　朝の活動として月１回，総合的な学習の時間として年間 10 時間（２年生は音楽及び創意の時間），前田和郎さんを招聘し，指導していただいている。

(2)　今年度は，ナカドウチェス市の中学生との交流やふるさと体験留学，鹿児島大学学校環境観察実習生との交流時に合同練習の場を位置付けた。参加された方々は一緒に踊りを楽しみながら，踊り方や歌い方を適宜指導してくださった。

4　学習の成果等

今年度は，シマ唄そのものを受け継ぐための時間と八月踊りを受け継ぐための時間を設定し，子供だけで発表できるようになることを目標に指導していただいた。その結果，次のような成果が得られた。

(1)　年度当初は，シマ唄を覚えたり，踊り方を覚えたりすることに苦労していたが，練習を重ねるにつれ，表情に自信が伺えるようになり，校区敬老会や学習発表会などの発表の場では，堂々と練習の成果を発表することができた。また，講師の前田さんが「子供だけでこれだけできるのはすごいよ。」と褒めてくださったことが，子供たちの自信になった。

【校区の方々との合同練習】

(2)　主体的に活動に取り組み，伝統文化の楽しみ方を知ったことによって，子供たちの発言や記述に「佐仁の伝統を引き継ぐ―。」といった言葉が増えてきた。

【学習発表会での披露】

5　活動の工夫や配慮事項等

(1)　発表会の案内やお礼状を校区の方々に書く活動を位置付け，発表への意欲や文化継承に対する意識を高めた。

(2)　講師の前田さん他，お世話になった方々を招いて，本年度の感謝を伝えたり，来年度の継承活動に向けた意欲付けをしたりする交流給食会を企画中である（３月予定）。

様式

教科支援タイプ

土曜授業における「ワークショップ体験講座」

学　校　名	奄美市立名瀬中学校	対象学年	全学年
支援活動内容	「総合的な学習の時間」において，多様な価値観への理解を受け止め，お互いの立場を尊重しながら協働するワークショップを体験する。		

1　活用のねらい（学校の願い）

少子高齢化と人口減が進む我が国において，将来を担う中学生に多様性と共生について理解を深めてもらうことと地域の人々とのかかわりの中で今後の自分の生き方について考えさせる機会とする。

2　支援ボランティアの募集方法

奄美市地域包括センターに依頼し，校区の地域人材を集めていただいた。

3　支援ボランティアの出番

それぞれの町（合計８町）のグループ（１グループ 20～30 人）に４～５名の地域のボランティアが入り，「イキイキとした名瀬中学校にするために必要なこと」というテーマのもと，ワークショップ形式で話し合うためのファシリテーターを行っていただいた。

4　学習の成果等

生徒たちの感想には，「班の皆でどんどん意見を出して分類していくことで，班のみんなの意見がまとまっていったところがおもしろかった。」とか「いろいろな意見が出て勉強になった。また，やってみたい。」といったものがあり，「多様な価値観」のよさを理解しているようであった。

5　活動の工夫や配慮事項等

- 活動の前半は，地域包括センターの担当者から，奄美市における「現状の分析と将来予測」と「これからの社会で求められる資質」について講話をしていただき，「多様な価値観」と「互いに尊重すること」の大切さについて理解を深めさせた。
- ボランティアの方も生徒たちも地域ごとのグループにして，今後，それぞれの地域において気軽にコミュニケーションをとれるようにした。
- 出された意見を「人・モノ・金・情報」に分類させ，課題の焦点化を図れるようにした。

様式

教科支援タイプ

奄美の先輩に学ぶ～キャリア教育の充実

学　校　名	奄美市立金久中学校	対象学年	１年生
支援活動内容	地元奄美で働く方々を講師として招き，仕事内容や仕事をする喜びや苦労，働くことを通した先輩方の生き方などを学ぶ。		

１　活用のねらい（学校の願い）

１年生の総合的な学習の時間において，地元奄美で働く先輩方を講師として招き，それぞれの仕事内容や仕事をする喜びや苦労，働くことの意義や中学生時に身に付けておくべきことを学ぶ機会とする。

２　支援ボランティアの募集方法

１年生の総合的な学習の時間の担当職員が，奄美市内で働く方々に，活動の趣旨やねらいを伝えて，講師依頼を行う。

３　支援ボランティアの出番

「先輩に学ぶ」授業は，毎年３学期に実施しており，平成 29 年度は３名の講師（農業，パティシエ，理学療法士）に依頼した。２学期までの間に，職業調べや上級学校調べ，働くことの意義等について，特別活動や道徳，総合的な学習の時間を通して学習しておく。

当日は，講師の先生方による講話及び質疑応答の時間を設定して実施する。

４　学習の成果等

授業後の感想では，将来の自分の職業に対する夢や希望について真剣に考える内容のものが多く，今の自分の良いところや課題について振り返ることができ，今後努力しなければならないことを考える機会となった。

５　活動の工夫や配慮事項等

事後指導では，「20 年後のわたし」として，高校卒業時や 20 歳代，30 歳代の自分について考えるワークシートを準備し，「先輩に学ぶ」授業を振り返るとともに，今後の自分の進路について考えさせる内容とした。

様式

教科支援タイプ

１級ラジオ体操指導士から学ぶ正しいラジオ体操

～ラジオ体操を正しく行い，体育大会を盛り上げよう～

学　校　名	奄美市立小宿中学校	対象学年	全学年
支援活動内容	１級ラジオ体操指導士（県内にわずか 19 名）の資格を持っておられる地域人材を活用して，体育大会に向けて正しいラジオ体操の仕方の指導をしていただく。		

１　活用のねらい（学校の願い）

体育大会全体練習の時間において，１級ラジオ体操指導士の資格をもっておられる地域人材を招聘し，全校生徒を対象に正しいラジオ体操の仕方を教授していただき，体育大会を成功させる。

２　支援ボランティアの募集方法

校長及び体育主任が，１級ラジオ体操指導士の資格を持っておられる地域在住の方に授業の趣旨・ねらいを相談し，授業参加を依頼した。

３　支援ボランティアの出番

校区内に在住で，本校の同窓会会長，学校評議委員でもあり，１級ラジオ体操指導士の資格を持っておられる地域人材が来校された。まず，生徒のラジオ体操を見られた後に，気をつけて行わなければならない動きや動作の流れ・つながり等について指摘していただいた。（実際に正しい動きを見せながら）

その後，音楽に合わせて生徒と一緒にラジオ体操を行い，手本と同じように動けるよう前に立って指導を行った。この指導を数回繰り返し行ったことで，全体がそろい，見応えのある全校でのラジオ体操となった。

４　学習の成果等

(1)　生徒の感想

今まで自分が行ってきた体操と教えてもらったものとはかなり違いがあった。ひとつひとつの動きに意味があることがわかった。

(2)　地域人材の感想

母校や後輩たちのために役に立てて嬉しい。

５　活動の工夫や配慮事項等

事前に生徒に趣旨やねらいをよく理解させ，指導していただくことで効果がより期待できる。また，失礼のないように礼儀指導等をしておく。

様式

教科支援タイプ

地域人材に学ぶ奄美の日本復帰運動

学　校　名	奄美市立赤木名中学校	対象学年	２年
支援活動内容	地域人材を講師として招聘し，講話を通して，郷土奄美の日本復帰の歴史を学び，平和の大切さを知り，現在の生活を更に大切しようとする態度を育てる。		

１　活用のねらい（学校の願い）

総合的な学習の時間において，元野景一さんをゲストティーチャーとして招聘し，講話をしていただくことにより，郷土奄美の日本復帰運動に関する歴史を学ぶとともに，平和の尊さを知り，大切にしていこうとする態度を育てる。

２　支援ボランティアの募集方法

本校職員が元野景一さんと旧知であったため，２学年主任を通して，授業の趣旨・ねらいについて相談し，授業への参加を依頼し，快諾していただいた。

３　支援ボランティアの出番

奄美の日本復帰運動の話のみならず，幼少期の食糧問題，アメリカの統治下の生活の様子等について，話をしていただいた。生徒にとって初めて聴いた内容も多く，知識を広げ，関心を高める良い機会となった。

４　学習の成果等

生徒の感想の中に「日本人に生まれたことに誇りをもち，堂々と謙虚に生きていくという言葉が印象に残った」や「当時の奄美の人々が泉芳朗さんを中心に懸命に復帰運動を行ったお陰で今の私たちの平和な生活がある」「奄美群島民の約 99.8%が日本復帰要望の署名をしたのは凄い」などの感想がみられ，学習の高まりがみられた。講演をしていただいた元野さんからも生徒の聴く態度がとても良い等の言葉をいただいた。

また，修学旅行を通した平和学習や奄美の日本復帰運動について，学んだことを活かして，10 月に行われた文化祭では奄美出身の女子挺身隊をテーマにした演劇を披露した。

５　活動の工夫や配慮事項等

⑴　活動のねらいを理解していただくために事前の打ち合わせを行った。

⑵　生徒の感想や感謝の気持ちを伝えるために，活動後の御礼状を生徒に作成させ送付した。

様式

教科支援タイプ

昔の遊び名人に学ぶ　～大好き！宇検村「昔遊び体験」～

学　校　名	宇検村立田検小学校	対象学年	１・２・３年生
支援活動内容	地域の老人会の方々を中心に集まっていただいた支援ボランティアの皆さんに子どもたちが体験しながら郷土の昔の遊びを教えていいただき，交流する活動を行う。		

１　活用のねらい（学校の願い）

１，２年生においては生活科，３年生においては総合的な学習の時間で，児童が郷土の昔の遊びを体験することを通して昔の生活の様子に興味･関心をもつことをねらいとしている。さらに，地域の方々と活動を通して触れ合うことで自分のふるさとをより一層好きになってほしいと願っている。

活用にあたっては，下記のことに留意する。

(1)　遊び方の説明をしたり，一緒に活動したりする中で子どもの頃の思い出や生活の様子等についても話していただく。

(2)　初めて顔を合わせる子どもたちもいるので，集落名と名前を大きく書いた名札をガムテープ等で作って胸に貼り，顔と名前を知っていただく。

２　支援ボランティアの募集方法

管理職が校区内集落の区長さんや老人会長さんに授業の趣旨やねらいを相談し，授業支援の協力者を募集してくださるよう依頼した。

３　支援ボランティアの出番

⑴　校区内４集落から老人会の方々を中心に１５名の方々に参加していただき，自己紹介をしていただいた。（島口で話してくださる方もおられた。）

⑵　遊びの種類ごとにボランティアの方々が２～３人ずつに分かれて入り，竹馬・こま回し・お手玉・笹舟作り等の遊び場所を作って，子どもたちに遊び方を説明しながら一緒に遊んでいただいた。

⑶　遊びながら子どもの頃の思い出話や昔の生活の様子等についても話をしていただいた。

４　学習の成果等

児童は，「知らない遊びを教えてもらえてよかった。」「いろいろな遊びができて楽しかった。」と話していた。ボランティアの方からは，「子どもたちから元気をもらえた。」「子どもの頃を思い出して楽しかった。」などの感想が聞かれた。

５　活動の工夫や配慮事項等

⑴　活動の趣旨を説明したり，必要な準備物等を確認したりする打合せ会を事前に開いた。

⑵　活動の様子を学校ブログや学校便り等で紹介することで，地域の方々に興味をもっていただき，次年度の協力者募集につなげたいと考えた。

様式

教科支援タイプ

ケンムン伝説に学ぶ郷土学習

学　校　名	宇検村立久志小学校	対象学年	全学年（児童数 12 名）
支援活動内容	地域につたわるケンムン伝説について支援ボランティアを活用して想像力や故郷を愛する心情を育てる。		

1　活用のねらい（学校の願い）

総合的な学習の時間において，高齢者の方をゲストティーチャーとして招聘し，地域に伝わる妖怪伝説「ケンムン」について体験談や逸話などを教えていただき，郷土教育の充実を図る。

(1)　高齢者の方がこれまでにどのような体験をしたのか，また，ケンムンについて伝えていきたいことは何かを話してもらう。

(2)　ケンムンに対する畏敬の念と故郷を愛する思いを話してもらう。

(3)　高齢者の方々の教えや知恵を知ることで，高齢者に対する尊敬の気持ちを育てる。

(4)　ネリヤカナヤ創作童話コンクール書くための参考にさせる。

2　支援ボランティアの募集方法

総合的な学習の時間の地域人材リストから直接相談し，授業参加を依頼した。

3　支援ボランティアの出番

(1) 高齢者１名が参加した。最初に，幼い頃の生活の様子を重ねながら，これまでにあったケンムンの体験談を話した。

(2)　高齢者が順序よく話ができるように，また，児童が想像しやすいようにプレゼンテーションを活用した。

(3)　ケンムンについて分からないことや知りたいことを直接聞きながら，子どもたちと意見交換を行った。

4　学習の成果等

妖怪伝説「ケンムン」について，正しく理解を深めることができた。また，児童が体験したケンムンを語ることで児童の想像力を一層高めることができた。さらに，高齢者の方への尊敬の気持ちを育てることができた。

5　活動の工夫や配慮事項等

(1)　ケンムン伝説を正しく理解させるために，分からない部分は教師が補足説明する。

(2)　活動後，低学年には，ケンムンを想像しながら絵を描かせたり，中・高学年には，ネリヤカナヤ創作童話を考えさせたりする学習活動へつなげる。

(3)　地域に残されているケンムン伝説について，情報を収集するきっかけにする。

教科支援タイプ

三味線達人に学ぶ郷土の音楽

学　校　名	宇検村立名柄中学校	対象学年	全学年
支援活動内容	地域の伝統文化の島唄を，地域の三味線名人の方に指導いただき，学習発表会で児童生徒や地域のみなさんに発表する。		

1　活用のねらい（学校の願い）

総合的な学習の時間と音楽の時間を活用し，地域の三味線の達人を講師として，地域に伝わる島唄を三味線で演奏する指導をしていただいている。日本の伝統楽器に慣れ親しみながら，島の人々の思いや暮らしなど郷土教育の充実を図っている。

島唄の学習を通して，地域社会の人々との交流を深め，演奏する時の態度やマナーについても学習する。

2　支援ボランティアの募集方法

長年本校でボランティアを務めているため，年度当初，中学校の担当者と教務が，直接伺い，ボランティアの講師依頼と，日程調整を行った。

3　支援ボランティアの出番

(1) 全校生徒（1年生1名，3年生1名）は，三味線が初心者のため，習得が容易そうな楽曲を選定してもらった。

(2) 子どもたちの上達の度合いをみながら，適宜練習計画の見直しを，相談しながら行った。

(3) 生徒一人一人の到達状況に合わせた指導で，子どもたちが自主的に取り組むような指導に努めてもらった。

4　学習の成果等

中３男子：「上達することがうれしいです。」

中１女子：「担任の中学校の先生たちも一緒に学ぶので心強い。」

ボランティア講師の「子どもたちに伝統芸能を伝えられて嬉しい。」との言葉から，双方とも楽しみながら学習することができている。その結果，この学習だけでなく，その他の地域行事等でも声かけや指導をいただいている。

5　活動の工夫や配慮事項等

(1) 講師の方に対する，生徒の事前指導を徹底した。（礼儀等）

(2) 感謝の気持ちをもって学習に取り組むために，毎回の活動の最後に感想とお礼の言葉を伝えた。

(3) 学習発表会へはボランティア講師の方にも案内をお送りし，演奏の様子を見てもらう。

(4) 生徒だけでなく，教師も活動に参加し，共に喜びや達成感を共有したり，地域の方と交流したりできるように努めた。

様式

教科支援タイプ

地域の太鼓名人に学ぶ郷土芸能
～立神太鼓の演奏で西阿室のよさを伝えよう～

学　校　名	瀬戸内町立西阿室小学校	対象学年	小１～小６
支援活動内容	地域に伝わるちぢん演奏の指導，改善，支援等		

１　活用のねらい（学校の願い）

総合的な学習の時間において，地域の太鼓名人の方をゲストティ―チャーとして招聘し，地域に伝わるちぢんの演奏について，演奏の仕方や工夫を学び郷土教育の充実を図る。

（1）　演奏曲に込められた，自然の様子の表現について話していただく。

（2）　ちぢんのたたき方，手入れの方法等，技術的な指導をしていただく。

（3）　指導者に対する，礼儀面の指導も行う。

２　支援ボランティアの募集方法

郷土教育係が，太鼓名人の方に，授業の趣旨等について説明し，授業日の日程等を計画する。

３　支援ボランティアの出番

（1）　太鼓名人の方より，演奏についての指導を受ける。

（2）　豊年祭，運動会，学習発表会等で演奏をする。

（3）　演奏後の感想等について話し合う。

（4）　改善点について，アドバイスを受ける。

４　学習の成果等

人前で表現することが少し苦手な子どもたちが，太鼓の練習や発表の機会を積み重ねることで，堂々と演奏することができるようになってきた。また，自信をつけることで，他のことにも意欲的に取り組むことができるようになってきている。

演奏の形態を少しずつ工夫することで，地域の方々にも，毎回喜んでいただくことができている。

５　活動の工夫や配慮事項等

活動のねらいやマンネリ化を防ぐために，学校と指導者の連絡を密に行う。

様式

学習支援タイプ

地域の人々から学ぶ島口文化
～　文化祭・学習発表会に向け，地域の方々と島口劇を作り上げよう　～

学　校　名	瀬戸内町立 伊子茂小・中学校	対象学年	小学校全学年 中学校全学年
支援活動内容	地域に伝わる島口を使い，小学校・中学校全員で島口劇に挑戦し，ふれあい活動をしながら，島口文化の良さや伝統を継承する取組		

1　活用のねらい（学校の願い）

郷土の文化や歴史に目を向け，郷土の先人や生き方に学び，郷土を愛し，郷土の発展・文化の継承に尽くそうとする意欲を育てる。

郷土にある素材（島口伝承）に目を向けることで，郷土の良さに気付かせ，よりよい郷土との関係を築こうとする態度を育てる。

2　支援ボランティアの募集方法

地域（校区内）の区長さんを中心に，この活動の趣旨やねらいを理解していただき，島口劇の台本を島口にアレンジしていただいたり，意味を含めた発音などの指導をしていただいたりするよう依頼をした。

3　支援ボランティアの出番

(1)　台本を島口に翻訳していただく。

(2)　島口を通して，伝統的な文化や島口を守り伝えていかねばならないという思いを子供たちに語っていただく。

(3)　島口劇を創作していく上で，表現する場合の留意点や発音について指導をいただく。

4　学習の成果等

昨年度，町子ども島口・伝統芸能大会の島口劇部門に出場し，最優秀賞を受賞することができた。子供たちは，郷土の文化の継承にさらに意欲を高め，自分たちの学習に誇りを持つことができた。

5　活動の工夫や配慮事項等

(1)　郷土愛を育み，島の良さや先人の知恵などを直に聞いたり，触れたりする貴重な機会となっているので，文化祭・学習発表会への参加も促している。

(2)　地域住民の高齢化や人口減による後継者不足のため，活動によっては継続に困難な状況も見受けられるので，時間設定や活動内容に配慮している。

様式

教科支援タイプ

広げよう　伝えよう　奄美の文化　奄美の心
～島唄･八月踊りの名人になろう～

学　　校　　名	瀬戸内町立古仁屋小学校	対象学年	４年生
支援活動内容	支援ボランティアを活用して奄美の文化や歴史について学ぶとともに，島唄や八月踊りを教えてもらい，運動会での全校八月踊りで発表する。		

１　活用のねらい（学校の願い）

総合的な学習の時間において，地域の「八月踊り研究会」の方々を講師として招へいし，奄美の文化や歴史，そして奄美の伝統文化である島唄や八月踊りを教えてもらい，保護者や地域の方々も参加する運動会での全校八月踊りの場で発表することにより，郷土教育の充実を図る。

活用にあたっては，下記のことに留意する。

(1)　島唄や八月踊りを伝承していくことの大切さについて，日頃から伝承活動をしている講師の思いを話してもらう。
(2)　奄美の歴史や文化についても話してもらい，郷土への理解を深める。
(3)　地域の方々との交流を通して，あいさつや礼儀，感謝の気持ちを持つことの大切さについても指導する。

２　支援ボランティアの募集方法

４年担任が「八月踊り研究会」の世話役の方に連絡を取り，学習計画を伝えるとともに，会員への支援参加を依頼した。

３　支援ボランティアの出番

(1)　「八月踊り研究会」の世話役の方が，島口も交えながら奄美の歴史や文化について話をした。その後，島唄の説明と練習をした。
(2)　郷土に伝わる八月踊りを教えてもらい，練習を行った。
(3)　運動会練習に「八月踊り研究会」の会員８名が参加し，全校八月踊りの指導を行った。

４　学習の成果等

本校区内では，島唄を唄ったり，八月踊りを踊ったりする機会が少なくなる中，奄美の伝統文化を学ぶ学習はとても貴重な学習の機会である。島唄や八月踊りを後世に伝えていきたいという熱い思いを持った「八月踊り研究会」の方々も積極的に学習支援に参加してくださっている。このように，学校と地域の思いがぴったりと重なることで，効果的な学習が展開できている。

５　活動の工夫や配慮事項等

(1)　学習のねらいや学習計画をしっかりと伝え，話してほしい内容について具体的に伝える。
(2)　活動後のお礼状を児童のことばを添えて送り，感謝の気持ちを表す。
(3)　３学期に行う学習発表会にお世話になった方々を招待し，学習の成果を披露する。

様式

教科支援タイプ

古仁屋中学校応援団「放課後コツコツ学習会」

学　校　名	瀬戸内町立古仁屋中学校	対象学年	全学年
支援活動内容	放課後に生徒が自習する時間に，支援員の方々が寄り添いながら学習補助することによって，生徒の学習に対する疑問や不安を解消していく。		

１　活用のねらい（学校の願い）

将来の職業や進路を考え，その夢の実現に向けて日ごろから意欲的に学習に取り組むことが大切であると考える。また，基礎的・基本的な知識・技能を修得することは，社会に出て生活し，仕事をしていく上でも極めて重要な要素であると考え，基礎基本の定着や学力向上を図る取組を行っている。

２　支援ボランティアの募集方法

特別支援コーディネーターと教頭が窓口となり，各学年部や教科部からの情報をもとに生徒の現状や課題を把握し，要望等をまとめ地域コーディネーターに支援員を要望している。

３　支援ボランティアの出番

週４回（火・水・木・金）の放課後１６：１５～１６：３０まで以下のような支援を行う。

(1)　読み・書き・計算を中心とした基礎的・基本的なプリント学習の採点を行う。
(2)　宿題や宅習課題の質問等に応じたりアドバイスを行なったりする。
(3)　発展的な学習（高校入試対策を含む）の個別指導を行う。

４　学習の成果等

(1)　習熟度の低い生徒に対し，個に応じた指導の充実を図ることができるようになった。
(2)　地域の方々に教えてもらい，自分の分からないところを質問したりすることで，異年齢としての，場に応じた適切なコミュニケーション能力の向上にもつながっている。
(3)　学校と地域のつながりが強くなるとともに，より開かれた学校となり，落ち着いた学校生活を送ることができるようになった。

５　活動の工夫や配慮事項等

(1)　担任から支援を要する生徒に個別に「コツコツ学習」参加について声をかける。
(2)　学習会には必ず職員も参加し，支援員と職員が協同で行う。
(3)　部活動顧問に活動の趣旨を理解させ，「コツコツ学習」への協力をお願いしている。

様式

教科支援タイプ

自然学習のための事前学習～アサギマダラについてくわしく知ろう～

学　校　名	龍郷町立龍郷小学校	対象学年	１年生～４年生
支援活動内容	アサギマダラの生態について知り，マーキング活動を行う意図について考えたり，アサギマダラの捕獲やマーキングの方法を学習する。		

１　活用のねらい（学校の願い）

学校の３つの教育の柱の一つである「環境教育」の中の「アサギマダラのマーキング活動」について，地域の方をゲストティーチャーにお招きして，アサギマダラの生態について話を聞き，マーキングの意図について考えることによって環境教育の充実を図る。

活用にあたっては，下記のことに留意する。

⑴　アサギマダラが捕獲できるか吸蜜植物の生育状況や天候などを確認し，時期等打合せを行う。

⑵　マーキング活動を行う意図について考えられるよう，アサギマダラの生態について話してもらう。

⑶　交流を通して，あいさつや礼儀の面の指導も併せて行う。

２　支援ボランティアの募集方法

活動の趣旨やねらいを継続して相談しながら，授業参加も依頼した。

３　支援ボランティアの出番

⑴　地域の方１名と活動に興味を持っている保護者の方１名が参加した。
まず，映像を見せながらアサギマダラの生態について話した。

⑵　グループを回りながらマーキングの仕方を教えた。

⑶　自然体験学習で実際にアサギマダラを捕獲する留意点について支援を行った。

４　学習の成果等

自然体験学習でのマーキング活動の実施
子どもの感想
お礼の手紙

５　活動の工夫や配慮事項等

⑴　時期の決定（アサギマダラの飛来の時期に合わせて）

⑵　活動を継続し，広げていくための広報活動

⑶　活動後のお礼の手紙

様式

教科支援タイプ

特色ある農作物について学ぶ郷土学習　～ごまを育てよう～

学　校　名	喜界町立喜界小学校	対象学年	５年生
支援活動内容	郷土の代表的な農作物の特徴や栽培の仕方を，学校応援団（支援ボランティア）を活用して学び，収穫の喜びを味わったり，郷土に誇りをもったりできるようにする。		

１　活用のねらい（学校の願い）

総合的な学習の時間において，町役場農業振興課の方々をゲストティーチャーとして招へいし，喜界島の特産物である白ゴマの特徴について話を聞いたり，ゴマ植えを体験したりすることによって興味や関心を高め，郷土教育の充実を図るとともに郷土愛を培う。

活用にあたっては，下記のことに留意する。

(1)　喜界島でなぜ白ゴマの栽培が盛んなのか，どんな特徴があるのかを話してもらうとともに，白ゴマを生産することについて誇りをもっていることを話してもらう。
(2)　農業振興課や農家の方々のゴマ栽培に対する思いを話してもらう。
(3)　ゲストとの交流をとおして，あいさつや礼儀面，話を聞く態度の指導も併せて行う。

２　学校応援団（支援ボランティア）の募集方法

５年担任が町役場農業振興課へ授業の趣旨・ねらいを相談し，職員への授業協力を依頼した。

３　学校応援団（支援ボランティア）の出番

(1)　農業振興課職員４名が参加した。喜界島の白ゴマの特徴について説明した後，子どもたちの質問に答えた。
(2)　グループの中に入って，ゴマ植え（種蒔き）を実演し，その後，子ども一人一人が体験する時にアドバイスや留意点について指導・支援をした。
(3)　水かけや草取りなど，世話の仕方について話をして意欲付けを図った。
(4)　耕耘や台風被害への対応相談等にも協力している。

４　学習の成果等

〔子どもの感想〕

○　喜界島の白ゴマが日本一の生産量であることを誇りに思った。
○　１回もゴマ植えをしたことがなかったので，いい勉強になった。
○　ゴマ植え棒を使うのは，思ったより難しかったけど楽しかった。
○　しっかり草取りをして，ゴマ菓子を作って食べたい。

５　活動の工夫や配慮事項等

(1)　収穫の際にも支援をお願いし，共に喜びや満足感を味わえるようにする。
(2)　収穫したものを調理し味わえるように，町食生活研究グループに支援の協力を依頼する。
(3)　活動して学んだことを学習発表会等で発表するとともに，ホームページ等で発信する。

様式

教科支援タイプ

受け継ごう！未来へつなげる喜界島
～サンゴの飼育・観察～

学　校　名	喜界町立早町小学校	対象学年	第５学年
支援活動内容	第５学年の総合的な学習の時間におけるサンゴについての出前授業並びに飼育・観察の技術指導		

１　活用のねらい（学校の願い）

学校におけるサンゴの観察・記録，喜界島サンゴ礁科学研究所の協力を仰ぎ，出前授業やサンゴの飼育・観察，周りの海や海洋生物の調査活動，海と人々の暮らしとのかかわりを調べるなどの活動を通して，喜界島の海や海洋生物に対する理解と愛着を深め，これからの喜界島の海と自分たちとのかかわり方について話し合ったり，喜界島の海や海洋生物の保全について自分たちにできることを考え行動したりしようとする意欲や態度を育て，行動していくために必要な資質や能力を培う。

２　支援ボランティアの募集方法

喜界島サンゴ礁科学研究所と共同研究という形を取り，月に１～２回，総合的な学習の時間において，サンゴについて講義をしてもらったり，飼育・観察の仕方について指導していただいたりしている。

３　支援ボランティアの出番

⑴　サンゴについての基礎的な知識や飼育・観察の仕方についての講義

⑵　サンゴの飼育・観察場面における指導や助言

４　学習の成果等

専門家の指導を直接受けることで，子どもたちの学ぶ意欲がとても高まった。１１月の県民週間で行われる学習発表会では，観察したり，調べたりしたことをまとめて，保護者や地域の方々に発表することができた。

また，同じくサンゴについて調査・研究活動をしている喜界高等学校の海洋教育グループとの交流も行うことができた。

５　活動の工夫や配慮事項等

事前に活動内容と指導してほしい事柄などを研究所の研究員と打合せておき，それぞれの役割分担や子どもへのかかわり方を確認しておく。

様式

教科支援タイプ

おいしさたくさん喜界島
～喜界島特産の農作物の栽培～

学　校　名	喜界町立早町小学校	対象学年	２～６年
支援活動内容	喜界島で作られている農作物の植付け・栽培・収穫・加工までの技術的な指導と助言，土作り		

１　活用のねらい（学校の願い）

ＪＡ，地元農家・生産業者，保護者，地域住民など，多くの方々に指導・助言をいただきながら，生活科及び総合的な学習の時間の学習や活動で，喜界島で作られている農作物の植付け・栽培・収穫・加工する体験や学習を通して，子どもたちに島の食文化や環境，産業やそれに従事する方々の工夫や努力，思いについて考えさせる。

２　支援ボランティアの募集方法

それぞれの農作物の栽培等に従事している保護者を中心に，関係する地域住民の方々に呼びかけて，参加できる方に指導にきていただくようにしている。

３　支援ボランティアの出番

⑴　農作物の植付け・栽培・収穫・加工における技術的な指導と助言

【栽培している農作物】さとうきび，白ゴマ，そらまめ，ブロッコリー，キャベツ

⑵　教職員への植付け・収穫時期の助言

⑶　学習農園の土作り

４　学習の成果等

自分で植付け・栽培し，収穫したり加工したりすることによって，子どもたちは達成感だけでなく，農作物を通して喜界島の産業や文化，それにかかわる方々の思いを感じることができた。また，それぞれの家庭でも農作物を作っている子どもが多いため，自分の家族や地域の方々の工夫と努力についても学ぶことができた。

５　活動の工夫や配慮事項等

○　農具の使い方の指導や作業の際の職員や大人の配置など，安全面への配慮を十分に行う必要がある。

様式

教科支援タイプ

郷土料理教室～地域の食材を使って～

学　校　名	徳之島町立井之川中学校	対象学年	１年生
支援活動内容	家庭科の授業で地域の食材を使って，郷土に伝わる料理を作る。さらに，郷土の食材や料理についての講話を聴く。		

１　活用のねらい（学校の願い）

保健センター管理栄養士と地域の食改善推進委員の方々を招聘して，郷土の食材や郷土の料理について理解を深めたり，実際に料理したりすることで郷土教育の充実や食育の充実を図る。

活用に当たっては下記について留意した。

(1)　郷土の食材や料理の由来を知ることで郷土に誇りをもたせる。

(2)　郷土の食材について知るだけでなく，野菜の切り方や包丁の使い方なども学ぶ機会とする。

(3)　地域の方と触れ合うことで，地域に見守られているという実感をもたせる。

２　支援ボランティアの募集方法

町保健センター，食改善推進委員と連携を取りながら進めていった。

３　支援ボランティアの出番

(1)　保健センターの職員１名と地域の食改善推進委員４名が参加して身近にある食材について，入手方法や調理方法を説明した。

(2)　調理の際に，包丁の使い方や野菜の切り方を教えた。

(3)　地域行事と特別な郷土料理の由来などを教えた。

４　学習の成果等

(1)　ハンダマや冬瓜を調理することで，島の食材に興味をもつことができた。

(2)　今まで食べられなかったものを美味しいと感じたり，季節ごとに決まった料理を食べるのも意味があることだと気付くことができた。

５　活動の工夫や配慮事項等

(1)　学校評議員に活動の様子を見てもらい，学校と地域のつながりを理解してもらった。

(2)　試食タイムは，地域の方と交流できるようにした。

教科支援タイプ

徳之島の郷土について学び，誇りとしよう。

学　校　名	徳之島町立東天城中学校	対象学年	１年生
支援活動内容	郷土の歴史・平和・自然・文化などについて，地域人材を活用して学び，学習発表会で発表している。		

１　活用のねらい（学校の願い）

総合的な学習の時間において，郷土の歴史・平和・自然・文化に詳しい方を講師に招聘し，郷土の文化財や史跡を探訪し，郷土に誇りをもつ生徒の育成を図る。

(1)　フィールドワークを実施することにより，今後の学習の動機付けとする。

(2)　郷土の歴史・自然・文化を調べることにより徳之島のよさを再認識させる。

２　支援ボランティアの募集方法

郷土の歴史・自然・文化に詳しい，元教員の方にここ数年依頼している。

３　支援ボランティアの出番

(1)　学校で，郷土の歴史について講話する。

(2)　フィールドワークで，文化財や史跡，平和・自然について説明する。

(3)　学校で，フィールドワークで説明できなかったことについて，説明する。

４　学習の成果等

(1)　生徒の感想

今日のフィールドワー　クで勉強になったことは，二度と戦争をしてはいけないということです。なごみの岬に行ったときにそれを感じました。

５　活動の工夫や配慮事項等

(1)　ねらいを達成するための事前打ち合わせを行っている。

(2)　学習した内容は，学習発表会において発表する。

様式

教科支援タイプ

地域の方に学ぶ島口　～集落に伝わる島口を学ぼう～

学　校　名	天城町立岡前小学校	対象学年	全学年
支援活動内容	昼の音読放送で使う地域に伝わる島口を，支援ボランティアを活用して各集落毎に学ぶ。		

１　活用のねらい（学校の願い）

各集落の島口を研究し伝えようとされている方々をゲストティーチャーとして招へいし，昼の音読放送で使用する島口について発音・意味を学ぶことにより，郷土教育の充実を図る。

活用にあたっては，下記のことに留意する。

⑴　地域の島口に対する思いを話してもらう。

⑵　子どもたちに島口で大事な発音について話してもらう。

⑶　高齢者との交流をとおして，あいさつや礼儀面の指導も併せて行う。

２　支援ボランティアの募集方法

国語主任が地域の島口研究グループの方へ授業の趣旨・ねらいを相談し，会員への授業参加を依頼した。

３　支援ボランティアの出番

⑴　島口研究グループの方が校区内６集落それぞれに入り，まず最初に島口についての想いを語っていただく。

⑵　島口で大事な発音など留意すべき点について指導していただく。

⑶　実際に児童に音読放送の原稿を読ませ，指導していただく。

４　学習の成果等

児童の地域への音読放送での実践

５　活動の工夫や配慮事項等

⑴　活動のねらいを十分に理解していただくために，授業前に校長室にお集まりいただき，説明を行った。

⑵　授業の最後に，それぞれの集落毎に児童の感想を述べさせ，感謝の意を伝えた。

⑶　児童の音読放送について，随時研究グループの方に感想をいただいている。

様式

教科支援タイプ

総合的な学習の時間
ふるさと奄美　～わたしたちのくらしと農業～　「蚕を育てよう」

学　校　名	天城町立兼久小学校	対象学年	５・６年生
支援活動内容	蚕の生態や飼育の仕方，繭から糸をとるための方法を，支援ボランティアを活用して教えてもらう。		

１　活用のねらい（学校の願い）

総合的な学習の時間において，農業センターの方をゲストティチャーとして招聘し，昔各家庭で養蚕業として育てていた蚕について学んだり，実際に飼育したりすることを通して，ふるさと徳之島の農業についての理解を深めるきっかけづくりとする。

２　支援ボランティアの募集方法

普段から，生活科や総合的な学習の時間など花や野菜作りのときに，土作り，野菜の植え方，育て方などを子どもたちに実際に指導していただいている。

３　支援ボランティアの出番

(1)　蚕の生態や飼育の仕方，繭から糸をとる方法などについての講話。

(2)　卵の様子の観察では孵化の順序やそのときの特徴を説明したり，えさとなる桑の葉の与え方などを実際に実演したりした。

(3)　蚕が大きくなる度に様子を見に来て，その都度飼育の仕方を子どもたちに指導してもらった。

４　学習の成果等

○　子どもたちは，小さかった卵が脱皮を繰り返し蚕に成長していく様子や繭から糸がとれることに驚いていた。農業センターの方は，今ではあまり見られなくなった養蚕について子どもたちに伝えることを通して交流ができたことを喜んでいた。

５　活動の工夫や配慮事項等

(1)　活動のねらいを十分に理解してもらうために，農業センターの方，校長，５・６年担任と打合せを実施した。

(2)　活動終了後，農業センターの方に子どもたちの感想やお礼の言葉を綴った手紙を送った。

様式

教科支援タイプ

育てよう！サトウキビ

学　校　名	伊仙町立伊仙小学校	対象学年	第５学年
支援活動内容	第５学年の総合的な学習の時間において，児童が郷土の特産物（サトウキビ）の製糖方法を調べたり，実際にサトウキビの世話や収穫を行ったりする際に指導・支援を行う。		

１　活用のねらい（学校の願い）

総合的な学習の時間において，地域の方々や５年生保護者をゲストティーチャーとして招へいし，サトウキビの育て方や収穫の仕方，製糖方法について説明をしてもらったり，子供たちが一人調べをしての疑問や分からないことに答えてもらったりすることで，学習のねらいに迫る。

２　支援ボランティアの募集方法

５年担任がサトウキビの育て方や収穫の仕方，製糖方法について詳しい地域の方々や５年保護者に授業の趣旨・ねらいを相談し，授業参加を依頼した。

３　支援ボランティアの出番

(1)　サトウキビの育て方や収穫の仕方について地域の方の２名が授業に参加し，説明や児童からの質問に答えた。

(2)　収穫の際には，５年生保護者が２０名程度，児童の支援として参加した。

(3)　製糖の活動時には，地域の方が２名，５年保護者３・４名が製糖の仕方についての説明や支援として参加した。

４　学習の成果等

(1)　サトウキビの育て方や製糖方法について詳しい方々から説明を聞いたり，質問に答えてもらったりすることでサトウキビの育て方や製糖方法についての理解が深まった。

(2)　支援ボランティアの方々が授業に参加してくださったことで児童がサトウキビについて身近に感じるとともに郷土への愛着を育むことができた。

５　活動の工夫や配慮事項等

(1)　活動のねらいを十分に理解してもらうために打ち合わせの時間を十分に確保する。

様式

教科支援タイプ

葉っぱ博士に学ぶ環境・郷土・国際理解　～しかうら HAPPA プロジェクト～

学　校　名	伊仙町立鹿浦小学校	対象学年	３～６年
支援活動内容	身近にある葉っぱを素材として，バクテリアの作用で葉を自然分解し，取り出した葉脈を染色して作品作りを行う。		

１　活用のねらい（学校の願い）

総合的な学習の時間において，島内在住の大学名誉教授（葉っぱ博士）をゲストティーチャーとして招へいし，地域素材を生かした環境・郷土学習を推進する。また，作品の交流を通して，海外で同じような取り組みをしている学校と交流を図ることで，活動に広がりをもたせ，探究的な活動の充実を図る。

活用にあたっては，下記のことに留意する。

⑴　葉の収集・自然分解のさせ方・葉脈の取り出し方・作品の作り方について，必要な用具の準備も含め進め方を教えてもらうが，基本は担任が進めていく。

⑵　子どもたちが作った作品の展示場所や，学校との交流にあたっては，個人情報の取扱いを慎重に行う。

２　支援ボランティアの募集方法

ゲストティーチャーが持ち込んだ学習内容であったため，本人が講師として授業サポートを行っている。

３　支援ボランティアの出番

⑴　単元の導入で，昨年の振り返りをした後，今年度の学習の進め方や見通しについて話をしてもらった。今年度は，「日当たり」「分解に必要な水の量」「葉の種類」など，いくつかの視点をもたせ，追究の柱（個別の課題）を子どもたちに考えさせるようにしてもらった。

⑵　作品をどのような場で展示できるか，海外校との交流の進め方については，ゲストティーチャーに連絡・調整をしてもらった。

４　学習の成果等

子どもの感想・・・「違いを比べたり，取り出し方を工夫したりしたことで，学びが深まった。楽しく取り組めた。」

講師の感想・・・・「子どもたちの素直な思いや発想がよりよい作品作りにつながっている。可能性が広がっている。」

５　活動の工夫や配慮事項等

⑴　学習を充実させるために，時間や場所等のほか準備物については，事前の打ち合わせを十分に行ってから進めるようにしている。

⑵　作品作りは，子どもの思いや発想を生かしながら進めるようにしている。また，常に学習の流れや現在の活動計画上の位置づけを確かめさせ，目的意識やゴールイメージをもたせるようにしている。

様式

教科支援タイプ

「犬田布騒動」学習会及び「犬田布騒動：劇（文化祭）」

学　校　名	伊仙町立犬田布中学校	対象学年	全学年
支援活動内容	先人の生き方を学ぶ（学習会） 学んだことを「犬田布騒動：劇（文化祭）」で発表する。		

1　活用のねらい（学校の願い）

・　道徳の時間における講話を通して犬田布騒動の起きた時代背景を学び，先人たちの生活の様子や騒動を起こした思いを知る。

・　学習したことを文化祭「劇」として発表する。

2　支援ボランティアの募集方法

・　犬田布騒動 150 周年シンプジウムを期に地域の高齢者，当時の様子等にくわしい方を講師として招聘した。

3　支援ボランティアの出番

・　講師の先生は，当時の写真や資料等を提示しながら約 90 分の講演を実施した。

・　当時の様子など生徒と意見交換も行った。

4　学習の成果等

・　島の歴史を学ぶことで，先人たちの忍耐力やたくましさを再認識することができた。

5　活動の工夫や配慮事項等

・　昨年度は学校創立 70 周年記念式典がありアトラクションとして「犬田布騒動：劇」を披露した。

・　今年度は，文化祭で行う「劇」のセリフを島口で挑戦する。

様式

教科支援タイプ

郷土の踊りを覚えて運動会で披露しよう。

学　校　名	和泊町立和泊小学校	対象学年	５，６年生
支援活動内容	支援ボランティアを活用して地域に伝わる踊り（センスル節）を覚え，運動会で披露する。		

１　活用のねらい（学校の願い）

体育科学習の時間において，地域の踊りの指導者やジューテ（三線・太鼓を演奏してくださる方）の方々をゲストティーチャーとして招へいし，地域に伝わる踊り(センスル節)を指導していただいたり，曲を演奏していただいたりして，郷土教育の充実を図る。また，覚えた踊りは運動会で披露して保護者・地域の方々に観ていただき，学習のまとめの場とする。

活用に当たっては，次のことに留意する。

⑴　踊りを学習する前に，伝統文化や地域で受け継がれているものを伝承していく大切さを学んでから活動を行う。

⑵　地域の方々に踊りに対する思いを話していただく。

⑶　地域でどのように伝承されてきたのか，また，子供たちにどのように踊ってもらいたいのか話していただく。

⑷　地域の方々との交流をとおして，挨拶や礼儀面の指導も併せて行う。

２　支援ボランティアの募集方法

５，６年の郷土教育担当が，センスル節を伝承している地域の方に相談し，平日に踊りの指導が可能な方及び運動会当日に演奏が可能な方を探していただき依頼する。

３　支援ボランティアの出番

⑴　地域の６人の方々が参加した。踊りの指導と併せて地域で大切に伝承されてきた思いも話された。

⑵　踊りの動きで特に留意する点について支援を行った。

⑶　曲に動きを合わせる場合の留意点について支援を行った。

４　学習の成果等

⑴　運動会で披露したことにより，保護者・地域の方々が大変喜んでいた。

⑵　地域の踊りを伝承したことにより，子供たちが地域に誇りを持つことができた。

様式

教科支援タイプ

郷土の先人「汐干す母」に学ぶ郷土学習
～国頭小汐干し体験から先人の苦労や知恵を学ぼう～

学　校　名	和泊町立国頭小学校	対象学年	６年生
支援活動内容	地域の産業であった製塩業の「汐干し作業」を通して郷土の先人の苦労や知恵などについて，地域ボランティアを活用して，「受け継ごう！汐干す母の塩づくり」を学ぶ。		

１　活用のねらい（学校の願い）

総合的な学習の時間の導入時の活動として，地域高齢者の方をゲストティチャーとして招聘し，かつて地域の産業であった製塩業についての講話を聞く。その後，海岸で汐干し作業を体験し，先人の苦労や知恵を学ぶ。その体験を生かし，郷土の歴史等の追究活動を行い，郷土教育の充実を図る。

活用にあたっては，下記のことに留意する。

（１）講話では製塩業や当時の貧しい暮らし（遠方まで歩いて塩を売りに行くなど）について話してもらい，塩を入れた樽を頭に乗せ，歩く体験をさせてもらう。

（２）先人たちがどのような思いで汐干し作業をしていたか，子どもたちに伝えたいことは何か話してもらう。

２　支援ボランティアの募集方法

６年担任が地域の高齢者（学校支援会代表）の方に授業の趣旨やねらいを伝え，授業協力を依頼した。

３　支援ボランティアの出番

（１）学校支援会２人が参加した。製塩業や当時の貧しい暮らしなどを話した。

（２）海岸で汐干し作業の昔ながらの方法を指導した。

４　学習の成果等

子どもの感想，追究活動の記録，壁新聞，劇などの発表

５　活動の工夫や配慮事項等

（１）活動のねらいを十分理解したもらうために，事前の打合せを入念に行い，保護者にも協力してもらう。

（２）活動後は児童が作成した手作りの塩にお礼のことばを添えて講師にお渡しする。

様式

教 科 支 援　タイプ

もっと知りたい沖永良部のこと　～島ムニ大会に向けて～

学　校　名	知名町立知名小学校	対象学年	第３学年
支援活動内容	支援ボランティアを活用して，島ムニについての理解を深め，島ムニを使った寸劇を行う。		

１　活用のねらい（学校の願い）

本校第３学年は，毎年２月に開催される知名町島唄・島ムニ大会に学校代表として出場している。

そこで，総合的な学習の時間に地域の方をゲストティーチャーとして招聘し，地域に伝わる島ムニを教えていただき，島ムニでの寸劇を行うことにより，郷土教育の充実を図る。

活用にあたっては，下記のことに留意する。

(1) 総合的な学習の時間のねらいの一つである「沖永良部のすばらしさに気づく」活動として，沖永良部島の自然や文化，島唄，三線などについて課題を設定し調べているため，調べたことを発表できる寸劇を作り，その台詞を島ムニで表現してもらう。
(2) 地域の島ムニに対する思いを話してもらう。
(3) 地域の方との交流をとおして，あいさつや礼儀面の指導も併せて行う。

２　支援ボランティアの募集方法

学校で作成している地域人材リストを参考に，担任が地域の方へ授業の趣旨・ねらいを説明し，授業参加を依頼した。

３　支援ボランティアの出番

(1) 島ムニについて，これまでも授業参加の経験のある地域の方が１名参加した。まず最初に子ども時代の島の様子や学校生活，遊び等について話した。その中でも島ムニを使った。
(2) 寸劇の内容（沖永良部島の自然や文化について調べまとめたこと）について児童が発表し，補足や修正を行った。
(3) 寸劇の台詞を島ムニで表現し，発音や言い回しなどについて支援を行った。

４　学習の成果等

(1) 児童の感想より（一部抜粋）
- 聞いたことのある島ムニもあったが初めて聞く島ムニばかりだった。少し使ってみたいと思った。
- 昔の知名小の様子を聞いて，服装や給食などが今と違うのに驚いた。
- 今度は，三線演奏にも挑戦してみたい。

５　活動の工夫や配慮事項等

(1) 活動のねらいを十分に理解してもらうために，事前の打ち合わせを入念に行った。
(2) 教えていただいた島ムニでの寸劇を発表する機会として学習発表会の演目にし，お礼を添えた招待状を届けるようにした。
(3) ２月の町の島唄・島ムニ大会では，今回の島ムニの寸劇に三線演奏を組み合わせることと，その際も支援ボランティア（地域の方）を招聘することを児童に知らせた。

様式

教科支援タイプ

校区内史跡めぐりと島ムニ体験　～島唄・島ムニ大会で発表しよう～

学　校　名	知名町立住吉小学校	対象学年	３年・４年
支援活動内容	地域に伝わる島唄・島ムニや校区内にある史跡を，支援ボランティアを活用して学習し，その成果を島唄・島ムニ大会で寸劇にして発表する。		

１　活用のねらい（学校の願い）

総合的な学習の時間において，地域の高齢者等をゲストティーチャーとして招き，地域の言葉や島唄に対する思いや願い，校区内にある史跡等を友達と協力し合って調べ，それを島唄・島ムニ大会で発表することにより，郷土教育の充実を図る。

２　支援ボランティアの募集方法

⑴　島唄・島ムニ体験

・　３年または４年担任が，校区内にある老人会長に，学習の趣旨・ねらいを相談し，老人会員への授業参加を依頼した。

⑵　校区内史跡めぐり

・　教頭が，町教育委員会・生涯学習課の史跡等担当者に学習の趣旨・ねらいを相談し，校区内史跡めぐりの講師を依頼した。

３　支援ボランティアの出番

⑴　町教育委員会・生涯学習課の史跡等担当者にお願いして，校区内史跡めぐりを行った。

⑵　校区内にある４つの字の老人会の方たちに，日程を調整し，別々に島唄・島ムニについて教えてもらった。老人会ごとに，生活で使う島ムニを教えてもらったり，島唄について教えてもらったりした。

⑶　町教育委員会主催の島唄・島ムニ大会で寸劇を発表するため，児童が考えた台本を島ムニに書き直してもらう作業を，老人会の中でも，特に島ムニに詳しい方にお願いをした。また，大会直前には，学校に出向いてもらい，島ムニのイントネーション等について直接指導してもらった。

４　学習の成果等

島唄や島ムニを教えてもらったり，島ムニ大会に向けて，練習したりすることを通して，島唄や島ムニを身近に感じることができ，簡単なあいさつを島ムニでする場面も見られるようになった。また，校区内の史跡等についても詳しく知る機会となった。

５　活動の工夫や配慮事項等

活動後，児童からお礼の手紙を送った。また，「学校応援団」活動の一環として行ったので，学校からもお礼を伝えた。

様式

教科支援タイプ

めざせ！田皆の名人～地域特産物「じゃがいも」栽培～

学　校　名	知名町立田皆小学校	対象学年	５・６年
支援活動内容	地域の特産物であるじゃがいも栽培を，支援ボランティアを活用して体験する。		

１　活用のねらい（学校の願い）

総合的な学習の時間に計画されている「めざせ！田皆の名人」の学習において，地域のじゃがいも農家の方をゲストティーチャーとして招聘し，地域の特産物である「じゃがいも」栽培の体験活動を行う。

活用にあたっては，下記のことに留意する。

(1)　じゃがいも栽培が地域の特産物となった歴史について話してもらう。

(2)　苗植えから収穫までの体験活動を通して，じゃがいも栽培で気を付けることを話してもらう。

２　支援ボランティアの募集方法

５・６年担任及び教頭が，地域のじゃがいも農家の方に授業の趣旨・ねらいを相談し，授業への協力を依頼した。

３　支援ボランティアの出番

(1)　種芋の切り方で，気を付けることについて指導してもらった。

(2)　種芋を植えるときに，気を付けることについて指導してもらった。

(3)　今後，収穫やじゃがいもを使用した調理の時にも指導していただく予定である。

４　学習の成果等

種芋の切り方や植え方等，農家の方の専門的な知識を教えていただき，子どもたちにとって良い学習の機会となった。

５　活動の工夫や配慮事項等

活動ごとに，しっかりとあいさつや御礼を伝えるようにする。

子どもたちが自主的に活動できるような機会をより多く設定する。

様式

教科支援タイプ

島ムニに学ぶ郷土学習　　～島ムニで劇を作ろう～

学　校　名	知名町立下平川小学校	対象学年	３年生
支援活動内容	昔話を基に劇の台本を作成し，支援ボランティアを活用してその台本を島ムニに変換する。発音指導を受けながら島ムニ劇の練習を行い，舞台で発表する。		

１　活用のねらい（学校の願い）

総合的な学習の時間において，地域の有識者をゲストティーチャーとして学校に招き，地域に伝わる島ムニの発音やイントネーションを学び，自分たちで作成した劇の練習そして舞台発表を通して，郷土の言葉を継承していく気持ちを育むことで，郷土教育の充実を図る。

２　支援ボランティアの募集方法

各地域（字）の区長さんを通じて，活動のねらいや授業の内容を理解し協力が可能な方を推薦していただき，日程などの調整ができた方に授業参加を依頼した。

３　支援ボランティアの出番

(1)　児童が作成した劇の台本を，数人の協力者が分担して台詞を島ムニに変換した。

(2)　島ムニの発音やイントネーションについて説明するとともに，島ムニは地域で伝え守っていく必要があることなど，生活に密着する島ムニへの思いを話した。

(3)　発表のリハーサルに立ち会い，演劇全体を通しての島ムニの流れや，言葉ひとつひとつの言い方について確認・修正した。

４　学習の成果等

＜児童の感想＞　　言葉が難しかったけど，自分たちで作った劇でみんなが楽しんでくれたので，とてもうれしかった。

＜支援者の感想＞　島の次代を担う子どもたちが，島に伝わる言葉を継承してくれることに，大きな意味があると思う。

＜活動の成果＞　　地域の方と直接接しながら島ムニを学ぶことで，郷土のよさに気付き継承していこうとする気持ちが高まった。

５　活動の工夫や配慮事項等

(1)　活動のねらいを理解してもらうために，十分な打合せの時間を設けた。

(2)　児童が発音を学びやすいように，録音教材を活用した。

(3)　あいさつやお礼の言葉も島ムニで行い，演技では抑揚を付けて気持ちを込めた。

様式

ポテトスクール（１・２年生合同学習）

教科支援タイプ

学　校　名	知名町立知名中学校	対象学年	１・２年生
支援活動内容	食育の一環として，ＪＡ青壮年部，ＪＡ婦人部の支援を受け，じゃがいも栽培を行い，試食会を行う。給食センターやＪＡに販売した売上金を，県大会出場の遠征費の助成金にする。		

１　活用のねらい（学校の願い）

総合的な学習の時間において，知名町ＪＡ青壮年部やＪＡ婦人部の方をゲストティーチャーとして招へいし，島の農業を支えてきた特産物の栽培を通して，次の３つを学習目標におき，郷土教育の充実を図る。

⑴　じゃがいも栽培を通して，郷土の産物を知り，先人の思いを知る。
⑵　集団で農作業に取り組む中で，協力する態度や地域の方への感謝の気持ちを育む。
⑶　協力して植え付け・収穫する中で，勤労の尊さ・食物の大切さを知る。

２　支援ボランティアの募集方法

⑴　平成 30 年８月 23 日に「食育」及び「花育」に関する連携協定調印式が行われた。知名町・ＪＡあまみ知名事業本部・ＪＡ青壮年団部知名支部と学校を，知名町教育委員会が連絡協議会実施の主催となり，各学校の実施希望日を調整し，支援計画を練っている。
⑵　保護者の協力（耕運機・掘取機の借用，作業協力）をいただくために，教頭がお知らせを発行している。来年度からは，入学式後のＰＴＡで１年生保護者に耕運機を，４月ＰＴＡで２年生保護者に掘取機を依頼することにしている。

３　支援ボランティアの出番

⑴　種芋切りの仕方，植え付け方の説明及び実技指導。島で栽培されているじゃがいもの品種や特徴についても教えていただいている。作業後は，その態度の評価を含め，農業に対する思いを語っていただいている。
⑵　ネット張りの作業では，ドリルの扱い，トラクター試乗もさせていただいている。
⑶　収穫では，掘り取り機の運用，婦人部による調理も行っている。

４　学習の成果等

農作業の大変さを実感するとともに，地域の方にいつも見守っていただいていることに改めて気付き，感謝の念が育っている。各グループごとに礼状書きの活動を行うが，毎年，様々な立場の方の協力でこの学習が成り立っていることに思いを巡らせ，丁寧に礼状をしたためている。また，プロの農家さんの協力と，10a 分の種芋・肥料の提供で，単収が高く，栽培実績が上がっている。

５　活動の工夫や配慮事項等

⑴　前年度の教育課程編成時期に，活動のねらいと実施時期について話し合っておき，連絡協議会で明確に伝えられるようにしている。総合的な学習の時間の係と教務で確認し合い，農協の担当の方と連携を密に取るとともに，活動前にはそのねらいを生徒にしっかりと伝えている。
⑵　農作業には，包丁や草刈り鎌などの危険な道具を扱うことが多いので，職員は作業よりも周囲の生徒の様子に気を配るようにと，事前に毎回打ち合わせている。

様式

教科支援タイプ

ゆみんちゅ隊による読み聞かせ

学　校　名	与論町立那間小学校	対象学年	全学年
支援活動内容	毎月１回，読み聞かせグループのゆみんちゅ隊の方に来ていただき，朝活動の時間に読み聞かせをしていただく。		

１　活用のねらい（学校の願い）

朝活動の時間（8:30～8:45）に毎月１回読み聞かせをしていただくことで，児童の読書への意欲を高めるとともに，様々な分野の本に触れることで，これまでに読んだことのない分野の本にも関心をもち，読書の幅をひろげることにより読書教育の充実を図る。

２　支援ボランティアの募集方法

４月に保護者を対象に募集を行っている。しかし，応募者は本校保護者にとどまることなく，地域の方もゆみんちゅ隊として子どもたちのために活動してくださっている。現在８名が活動中である。

３　支援ボランティアの出番

一年間の活動の締めくくりとして毎年３月に，全校児童を体育館に集めて大がかりな読み聞かせを行っている。この時は，ゆみんちゅ隊以外の保護者の協力ももらいながら，影絵の発表など毎年趣向をこらした発表を行っている。

４　学習の成果等

毎回学年に応じた本や時節に合った本を選んでいただいているため，毎月の読み聞かせを児童はとても楽しみにしている。

５　活動の工夫や配慮事項等

・８名のゆみんちゅ隊の方が輪番で各学級を回るようにすることで，毎月，趣向の異なる読み聞かせができ，児童が様々な本に出会える場となるように配慮している。

・年齢や時節に合った本を選ぶ等，児童の実態に応じた読み聞かせができるように工夫している。